

錦城生 躍進を続ける

陸上・卓球・文芸次につながる一歩

新年度が始まって約2か月。各部活動では本格的な活動がスタートし、どの部も精力的に活動している。陸上部は、今週末に駒沢競技場で行われる関東大会に出場する。今号では、5月に行われた大会にて素晴らしい成績を収めた3部活にお話を伺い、大会を振り返ってもらった。

(編集部共同取材)

陸上競技部都大会入賞

関東大会出場へ
5月11日(土)・12日(日)・18日(土)・19日(日)、駒沢競技場にて開催された高校総体東京都大会で、早川愛花さん(3F)が女子3000m決勝に進出・5000m競歩優勝、芝本瑞音さん(2E)が女子走高跳第6位、女子5000m競歩で優勝した早川さんは、今回の勝因を4月に行われた支部予選会から今大会までの期間で「競歩の練習に専念できたことが良かったのかなと思います」と話した。大会当日は、自己ベストを出すことができず悔しい思いをしたそうで、「インターハイに向けて調子を上げられるように、練習を積んでいきたいです」と力強く意気込んでいる。



みんなの声が力になった(陸上競技部提供)



入賞した卓球部の団体メンバーに記念撮影を依頼しました

女子走高跳で6位に入賞した芝本さんは、結果を出せたのは部員や顧問の先生の声掛けが大きかったと振り返る。「最初は不安や緊張もありましたが、跳ぶたびに皆が声をかけてくれて、それがとても力になりました」と大会について話してくれた。

芝本さんは錦城生に向けて「自己ベストを出せるように頑張るので、応援してくれたり嬉しいですよ」とメッセージを送った。

卓球部 団体戦優勝

5月26日、武蔵野の森総合スポーツプラザで行われた東京都総合体育大会BクラスBブロック団体戦にて、卓球部が準優勝を果たした。出場した岩波菜里衣さん(2H)、高島結子さん(3B)、大場結菜さん(3E)、秋田理沙さん(3H)、伊達日菜乃さん(3C)、前田遥香さん(2G)に話を聞いた。

高島さんは、準優勝が決まったときの事について「とても嬉しかったです」と語る。特別に感謝の思いを語る。2年生は「今までありがとう」と部員に感謝の思いを語る。2年生は「新しい1年生を引っ張っていきけるよう仲良く、強く頑張ります」と話し、3年生が「つないだバトンを次へとつないでいきたいと意気込んだ」と語った。

図書館ジュース事件!?

自習室使用のマナー・ルールを守れていますか



ブルーシートに覆われた床

球技大会の週の初め頃、図書室で飲み物をこぼしたような大きな染みが見つかった。申し出た人はおらず何の染みかはわからなかったようで、床の面を一部外して洗ったという。錦城の図書室・自習室では、以前まで飲食物の持ち込みは禁止されていたが、昨年頃から飲み物を一時的に机の上に出して飲むことが許可されるようになった。しかしこのルールはあまり浸透していないようで、机の上に飲み物を置いたまま勉強している生徒は多くいる。これからのルールをどうするかはまだ検討中だが、もし今後も守られないことが続けば、再び飲食物持ち込み禁止になる可能性もあるという。司書の渡邊愛先生は、このようなことがあった場合にはすぐに報告してほしいとすうえで「掲示してあるものや図書館だよりをよく見て、皆さんが気持ちよく使えるようにそれぞれの意識を高めてもらえたらと思います」と錦城生に呼びかけた。

(瑞)

『錦城高校新聞』科学雑誌デビュー!

『子供の科学』7月号に掲載されました

5月16日(木)、編集部が誠文堂新光社『子供の科学』編集部から取材を受けた。『子供の科学』は、小学校3年生から中学生くらいまでをターゲットとした月刊誌で、取り上げるテーマは生き物から気象、天文まで多岐にわたる。取材終了後に『子供の科学』



7月号に掲載

編集部に加藤友理さんに逆取材することができた。『子供の科学』では、1つのコーナーとして都内の中高にある特徴のある部活動を取材する活動をしているそうだ。『子供の科学』ではプログラミングなどをテーマにすることもあって、加藤さんは「読者の子どもパソコンを使う新聞委員会の活動に興味を持ってくれるのではないかと思います、取材に来



取材終了後には逆取材も行った

ました」と取材に訪れた経緯を教えてください。

新聞委員会の印象について、加藤さんは「部員の皆さん、仲がよさそうで楽しそうな委員会だなと思いました」と語った。

※ ※ ※

新聞委員会が取材を受けた内容は『子供の科学』7月号に掲載されています。新校舎7階の生徒会室にコピーを貼ってあるので、是非見てみてください。

(蘭)

文芸部 最優秀賞選出

文芸部の加納奈央さん(3A)が、東京都高等学校文化祭文芸部門地区大会「詩」部門で最優秀賞を受賞した。

前回は引き続き最優秀賞に選ばれたことで、自分の詩がどこまで通用するのかわからないと語る。



今しかできないことはできるだけやりたい

点で、違う人も評価されているというところがわかって励みになり、自信につながったと加納さんは語る。

今回の作品は、恋人を思う女性がモチーフで、女性の相手が枯れていくことで女性の気持ちを表現したという。詩の制作の際は特別なことは特にせず、日常生活のなかで思ったこと、自然に思いついたことを何かに言い換えて作品を制作しているそうだ。

夏休みにはいろいろな他の大会にも応募したいと意気込みをみせる加納さん。高校生はできるだけやりたい、と語った。

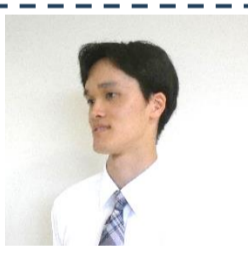
理科 田中義貴先生



一生モノの付き合い大切に

「今は好きなことを突き詰めることが大切だと思います」と語る田中先生。錦城生だった当時は体操部に所属していて、約10年ぶりとなる錦城に「いい雰囲気が変わらないです」と話す。高校時代好きだった科目はやはり生物で、先日3年時の担任でもあった阿部一朗校長先生に会ったところ「生物がすごく得意だったよね」と言われたほど得意だったそう。

田中先生が教員を目指した理由には大学院の指導教員の影響が大きいという。もともとと教科書編集委員だった指導教員の先生を手伝う形で、田中先生はデータ収集に協力したこともあるそう。加えて、大学生から塾講師のバイトを

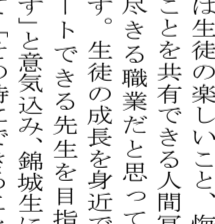


できることを一生懸命に

赤澤先生は自身が中学生のころに通っていた塾の先生に影響を受けて漠然と先生になりたいと考えてようになったという。その後、高校3年生の時に松橋達先生の化学の授業を受けているうちに化学の先生になることを決めたそう。赤澤先生は笑顔で語る。

赤澤先生は「教職というのは生徒の楽しいこと、悔しいことを共有できる人間冥利に尽きる職業だと思っています。生徒の成長を身近でサポートできる先生を目指します」と意気込み、錦城生に向けて「その時にできることを一生懸命頑張ってください」とメッセージを送った。

英語科 坂内新先生



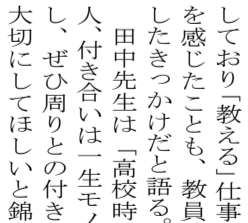
楽じゃないことを楽しんで

久々に訪れた錦城の印象に「変わっていない」と思いました。球技大会も相変わらず白熱していました」と話してくれた坂内先生。

人と近い距離で接したり、支えたりすることができると魅力を感じ、教師を志したという。教育実習として錦城に帰ってきて、高校時代の顧問や担任の先生が自分のことを覚えていてくれたことが嬉しかったと語る坂内先生。高校時代は硬式テニス部に所属していて、たくさん外周したことを覚えているそうだ。

教育実習の期間中は授業の分かりやすさと親しみやすさを大切にしたいと意気込み、錦城生に向けて「校長先生の言葉にもありましたが、楽しんでやらないことを楽しんでほしい。頑張ってください」とメッセージを送った。

英語科 松岡美月先生



行動次第で生活は変わる

久しぶりに会った先生方について見ても、優しく生徒思いなところも変わっていないと話すのは英語科の松岡先生。松岡先生は高校2年生の時から新聞委員会編集部所属していたそう。「学校を盛

教育実習生 PARTY2

「その時にできることを一生懸命頑張る」



行動次第で生活は変わる

6月7日 図書委員会
6月12日 代議委員会
6月12日 球大実行委員会本部



・錦城祭実行委員会
・後夜祭実行委員会
・随時活動中